

鉄道河川橋梁の流失・傾斜対策により、 鉄道の安全・安定輸送を確保する

【対策】58-1 豪雨による鉄道河川橋梁の流失・傾斜対策

対策概要：橋脚・橋台の基礎部分の補強、橋梁の架替えにより、豪雨による橋梁の流失・傾斜を防止する。異常検知システムの導入により、橋梁に傾斜等が発生した場合の列車の進入を防止する。

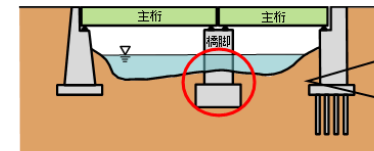
府省庁名：国土交通省

【事例】鉄道河川橋梁の流失・傾斜対策（アイジーアールいわて銀河鉄道）

- 実施主体：アイジーアールいわて銀河鉄道
- 実施場所：岩手県岩手郡岩手町
- 事業概要：河川増水時の洗掘により、橋梁が流失・傾斜してしまうと、鉄道の安全・安定輸送が担保できず、また容易に復旧ができないことから運転再開までに長期間を要するおそれがあるため、豪雨による鉄道河川橋梁の流失・傾斜を防止するために、洗掘防止工を実施。
- 事業費：約3,400万円
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)約3,400万円)
- 効果：令和4年8月の豪雨により、河川の水位上昇(通常約0.2m程度のところ、最高で2m以上と推定)を観測したが、当該橋梁の流失・傾斜等の変状はなく、被害が生じなかったため、長期間の運休を回避することができた。

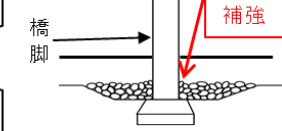
洗掘防止工

河川に架かる鉄道橋梁
(イメージ図)



橋梁(橋脚)の補強例

石やブロックを
設置し、河床を
補強



対策前(令和2年5月)



対策後(令和4年2月)



川床へのブロック設置

豪雨時(令和4年8月)

